

「浅間山の火映現象復活(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

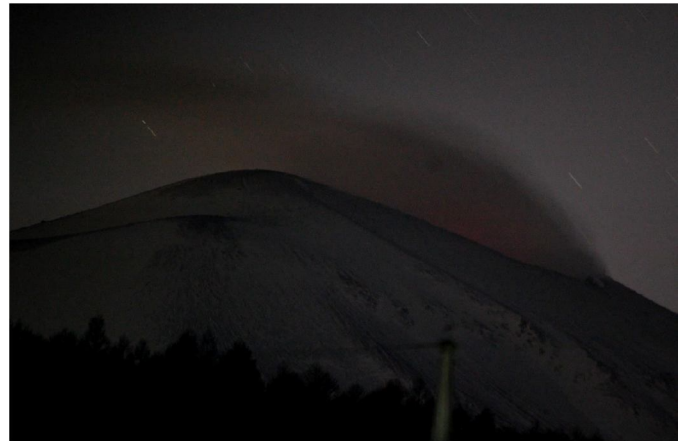
日本有数の活火山「浅間山」…2004年に噴火して以来、何度か小さな噴火を繰り返してきた。私は友人の技術者との共同研究で、その後13年間、浅間山の映像観測を続けてきた。我々の観測の最大の特徴は、一般的な高感度 CCD カメラではなく、遠隔操作による、デジタル一眼レフカメラでの火山観測である。これは、特に夜間の噴火や、噴火前の前兆現象の観測に、一定の成果をあげたように思う。

2009年2月には、再び浅間山が噴火し、このカメラがその瞬間をとらえることに成功した。深夜の噴火だった為、現地で撮影に成功した者は皆無で、この写真は多くの新聞(中央紙、地方紙、合計20紙以上)に掲載された。現行の6年生理科の教科書にも掲載されている。

(下写真)「浅間山の夜間噴火」

2009年2月2日 / 北軽井沢栗平 / C.Tanaka
デジタル一眼レフによる遠隔撮影

このカメラはその後、何度も夜間に見られる火山活動の一つである「火映現象(かえいげんしょう)」をとらえている。火映現象というのは、火道を上昇したマグマや、火口底にたまった溶岩の灼熱が、噴気・噴煙・火口壁上の雲などに反映し、赤く光って見える現象である。浅間山では、肉眼で見える強度のものは稀だが、高感度カメラや、デジタル一眼レフによる遠隔撮影では、非常によく観測される。この火映現象が、1月19日の18:30に再び出現し、撮影に成功した。



(上写真)「浅間山に復活した火映現象」

2017年1月19日18:30 / 北軽井沢 / C.Tanaka
噴気中央部のわずかに赤い部分が「火映」

